

■■ 資料

日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト (2020)

坂 中 正 義

(南山大学人文学部心理人間学科)

要約

本論文は、2020年に発表された、わが国におけるパーソンセンタード・アプローチ関連の文献リストである。文献は、非指示的カウンセリング、来談者中心療法、パーソンセンタード・カウンセリング、パーソンセンタード・セラピー、パーソンセンタード・アプローチ、ベーシック・エンカウンター・グループ、フォーカシング、体験過程療法、フォーカシング指向心理療法、積極的傾聴法等に関するものである。収録は「来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング」「体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」「ベーシック・エンカウンター・グループ」「その他」ごとに、A.書籍、B.研究論文、C.学会発表、D.翻訳、E.海外文献紹介、F.書評のジャンルに分けて行っている。

キーワード：来談者中心療法、パーソンセンタード・カウンセリング、パーソンセンタード・セラピー、フォーカシング、体験過程療法、フォーカシング指向心理療法、ベーシック・エンカウンター・グループ、パーソンセンタード・アプローチ、文献リスト

はじめに

筆者は、わが国におけるパーソンセンタード・アプローチの研究および実践を振り返り、今後の発展のための課題探索の1つの手がかりを提供するため、次のような文献リストを作成した。

1. 坂中正義 1998 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト ―ロジャース選書及び全集― 九州大学心理臨床研究, 17,

113-121.

2. 坂中正義 1998 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（～1969） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 2, 9-31.
3. 坂中正義 1998 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1970～1974） 福岡教育大学「教育実践研究」, 6, 81-88.
4. 坂中正義 1998 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1975～1979） 福岡教育大学「教育実践研究」, 6, 89-98.
5. 坂中正義 1999 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1980～1984） 福岡教育大学紀要（教職科編）, 48, 195-214.
6. 坂中正義 1999 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1985～1989） 福岡教育大学「教育実践研究」, 7, 115-132.
7. 坂中正義 1999 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1990～1994） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 3, 13-51.
8. 坂中正義 2000 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1995～1999） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 4, 13-55.
9. 坂中正義 2001 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2000） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 5, 23-56.
10. 坂中正義 2002 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2001）—第Ⅰ部：来談者中心療法— 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 6, 51-68.
11. 坂中正義 2002 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2001）—第Ⅱ部：ベーシック・エンカウンター・グループ、第Ⅲ部：体験過程療法・フォーカシング、第Ⅳ部：その他— 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 6, 69-85.
12. 坂中正義 2003 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2002） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 7, 1-22.
13. 坂中正義 2004 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2003） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 8, 31-50.
14. 坂中正義 2005 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2004） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 9, 17-36.
15. 坂中正義 2006 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2005） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 10, 1-24.
16. 坂中正義 2007 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2006） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 11, 1-20.
17. 坂中正義 2008 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2007） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 12, 1-24.
18. 坂中正義 2009 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2008） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 13, 9-29.

19. 坂中正義 2010 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト (2009) 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 14, 27-50.
20. 坂中正義 2011 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト (2010) 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 15, 29-50.
21. 坂中正義 2012 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト (2011) 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 16, 1-20.
22. 坂中正義 2013 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト (2012) 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 17, 1-23.
23. 坂中正義 2014 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト (2013) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 13, 231-255.
24. 坂中正義 2015 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト (2014) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 14, 231-255.
25. 坂中正義 2016 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト (2015) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 15, 105-134.
26. 坂中正義 2017 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト (2016) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 16, 111-139.
27. 坂中正義 2018 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト (2017) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 17, 97-130.
28. 坂中正義 2019 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト (2018) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 18, 115-137.
29. 坂中正義 2020 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト (2019) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 19, 123-149.

本論文では、これらの論文の続編として、2020年の日本におけるパーソンセンタード・アプローチ関連の文献リストを作成する。また、これまでのリストに漏れていたものを追録する。

方法

2020年に発行されたパーソンセンタード・アプローチ関連の以下のようなキーワードが論じられている文献が収集された。

非指示的カウンセリング、来談者中心療法、パーソンセンタード・カウンセリング、パーソンセンタード・セラピー、パーソン・センタード・アプローチ、ベーシック・エンカウンター・グループ、フォーカシング、体験過程療法、フォーカシング指向心理療法、積極的傾聴法、人間中心の教育等。

分類方法は、文献を「来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング」「体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」「ベーシック・エンカウンター・グループ」「その他」の4部に分類し、それぞれ、A.書籍、B.研究論文¹、C.学会発表、D.翻訳、E.海外文献紹介、F.書評に分けて収録した。さらに、各部ごとに2020年の動向や代表的な文献を紹介した。

文献は、できるだけ手広く収集を努めたが、不備も予想される。それらについては、指摘をまって、今後の文献リストシリーズの中で、訂正、追加、補足したい。

第I部：来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング

「第I部：来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング」には関連文献のうち、来談者中心療法、来談者中心遊戯療法、パーソンセンタード・セラピーといった個人カウンセリングや「自己一致」「共感的理解」「無条件の積極的関心」「アクティブリスニング」などの基礎概念、歴史、人物等が論じられているものを収録した。

2020年の概要は次のとおりである。「A.書籍」は2本であった。「B.研究論文」は6本であった。「C.学会発表」は7本で、そのうち1つがシンポジウムであった。「D.翻訳」はなかった。「E.海外文献紹介」は1本であった。「F.書評」は1本であった。

2020年における「来談者中心療法」の特徴は、ワークショップ等の体験に関わる文献とカウンセリング初学者をターゲットにした文献が刊行されたことであろう。

ワークショップの体験に関わる文献はB-1、B-3、B-4、C-5などである。カウンセリング初学者をターゲットにした文献は、C-1、C-7である。また、B-1、B-3等のワークショップは初学者をターゲットにしており、その意味ではこれらの文献もあげられる。パーソンセンタードをオリエンテーションとするカウンセリングをどのように伝え、セラピストをどのように育成するかはこの領域の1つのテーマといえよう。これらの文献はこのテーマをさらに深める素材となりえよう。また、パーソンセンタード・セラピストは自身のありようを問うことが求められる。その視点に立てば、C-3やC-6もセラピスト育成といったテ

¹ 研究論文には便宜上、ニュースレター等も含めている。

マの連続線上にあるといえよう。

A.書籍

1. 東 斉彰 2020 精神分析、パーソンセンタード・アプローチ、ブリーフセラピーと認知療法—他学派にこそ役立つ認知療法— 「心理療法・カウンセリングに生かす認知療法—統合的認知療法の実際—」誠信書房, 序章, 3-7.
2. 東 斉彰 2020 心理療法の各学派における治療理論—精神分析、行動療法、パーソンセンタード・アプローチ、ブリーフセラピーを中心に— 「心理療法・カウンセリングに生かす認知療法—統合的認知療法の実際—」誠信書房, 第1章, 8-16.

B.研究論文

1. 板橋真由美 2020 「《パーソンセンタード・アプローチPCA》を体験的に学ぶ」を受講して 日本カウンセリング研究会本部2019年度会報「ゆすらうめ」, 1-2.
2. 久羽 康 2020 パーソンセンタード・アプローチと「問う力」「聴く力」 臨床心理学, 20(4), 389-392.
3. 前濱祥子 2020 《パーソンセンタード・アプローチPCA》を体験的に学ぶに参加して 日本カウンセリング研究会本部2019年度会報「ゆすらうめ」, 3.
4. 中田行重・上西裕之・斧原 藍・小野真由子・本山智敬・David Murphy 2020 David Murphy Osaka Workshopからの学び：日本の PCTの今後について 関西大学心理臨床センター紀要, 11, 57-66.
5. 日本カウンセリング研究会本部 2020 ワークショップを終えて感想・気づき等アンケート 日本カウンセリング研究会本部2019年度会報「ゆすらうめ」, 4-5.
6. 坂中正義 2020 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト (2019) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 19, 123-149.

C.学会発表

1. 三國牧子 2020 カウンセリング理論教授法—Rogersの6条件の教え方から— 日本人間性心理学会第39回大会プログラム・発表論文集, 50.
2. 永野浩二 2020 自分自身を生きることの意味～パーソンセンタード・カウンセリングの事例を通して～ 日本人間性心理学会第39回大会プログラム・発表論文集, 43.
3. 日本人間性心理学会第39回大会 2020 自主シンポジウム：臨床家としての Personal Developmentを考える 日本人間性心理学会第39回大会プログラム・発表論文集, 37.

司会 (永野浩二)

企画者 (永野浩二・河 俊博・本山智敬・森川友子)

4. 奥井智一郎 2020 教員採用試験におけるクライアント中心療法—2014年～2019年の教員採用試験の教職教養問題を対象として— 日本心理臨床学会第39回大会発表論文集, 242.
5. 小野真由子・斧原 藍・並木崇浩・山根倫也・白崎愛里・中田行重 2020 PCA-Kansaiにおける活動と学びの体験報告 日本人間性心理学会第39回大会プログラム・発表論文集, 70.
6. 田中将司 2020 プレイセラピーにおけるセラピストの態度—パーソンセンタードアプローチに基づく再考— 日本人間性心理学会第39回大会プログラム・発表論文集, 41.
7. 山根倫也 2020 パーソンセンタード・セラピストに専門的知識は不要なのか—クライアントと出会う“準備”という観点から— 日本人間性心理学会第39回大会プログラム・発表論文集, 45.

D.翻訳

[該当文献なし]

E.海外文献紹介

1. 山根倫也・小野真由子・中田行重 2020 Person-Centered Therapyのエビデンス : Elliott, Watson, Greenberg, Timulak, & Freire (2013) の メタ分析の紹介から 関西大学心理臨床センター紀要, 11, 77-86.

F.書評

1. 平木典子 2020 「飯長喜一郎・園田雅代編 2019『私とパーソンセンタード・アプローチ』新曜社」 精神療法, 46(1), 125.

付：同リスト (～2019)

「第I部：来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング」の追録

A.書籍

[該当文献なし]

B.研究論文

1. 堀尾直美 2018 公認心理師・臨床心理士の実践知を看護に活かす! ナースが使える臨床心理の知識・技法(第6回) 来談者中心療法とその展開(ロジャーズとジェンドリン) 月刊ナーシング, 38(10), 112-115.
2. 細田憲一 2013 摂食障害と向き合う—空洞化したモラトリアムを生きる—

CAMPUS HEALTH, 50(2), 97-102.

3. 宮前 理 2019 「来談者中心療法」の理論と実践 東北生活文化大学・東北生活文化大学短期大学部紀要, 50, 161-170.
4. 岡村達也 2015 ロジャーズとクライアント中心療法（特集：精神療法における治療者の心性）精神療法, 41(5), 686-691.
5. 徳田完二 2017 「教育相談」における課題：カウンセリングとは何かについてどう教えるか 同志社大学教職課程年報, 7, 44-54.
6. 渡邊孝憲 2019 来談者中心療法における「受容」（特集 学校健康相談における「受容」）学校健康相談研究, 16(1), 10-24.

C.学会発表

1. 堀井 翼・櫻井義尚・櫻井恵里子・鶴田節夫 2019 来談者中心療法を用いたカウンセリングシステムの性能比較 情報処理学会第81回全国大会講演論文集, 771-772.

D.翻訳

〔該当文献なし〕

E.海外文献紹介

1. 中田行重・秋山有希・大田由佳・大谷絵里・中森涼太 2016 体験的療法はクライアント中心療法からの新たな発展か：Lietaer（1998）の紹介と考察 関西大学臨床心理専門職大学院 心理臨床センター「関西大学心理臨床センター紀要」, 7, 111-120.

F.書評

〔該当文献なし〕

第Ⅱ部：体験過程療法・フォーカシング指向心理療法

「第Ⅱ部：フォーカシング指向心理療法・体験過程療法」には関連文献のうち、体験過程療法やフォーカシング、フォーカシング指向心理療法、「体験過程」「フェルトセンス」「シフト」などの基礎概念、歴史、人物等が論じられているものを収録した。

2020年の概要は次のとおりである。「A.書籍」はなかった。「B.研究論文」は32本であった。「C.学会発表」は12本であった。「D.翻訳」は1本であった。「E.海外文献紹介」はなかった。「F.書評」はなかった。

2020年における「体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」の特徴は、学会奨励賞受賞記念講演であるC-3、C-7、BionとGendlinの理論の異同を検討

したB-10が刊行されたことであろう。

C-3は日本人間性心理学会、C-7は日本心理臨床学会で学会奨励賞の受賞記念講演である。異なる学会でフォーカシングに関わる研究者が奨励賞を受賞するという事は、例年この領域の文献は多数発行されていることもあわせて、この領域の研究が活性化している傍証といえよう。

このうち、C-3の久羽 康氏がBionとGendlinの理論についてその共通点と相違点を検討したのが、B-10である。氏も述べているとおり、異なる立場や理論とパーソンセンタード・アプローチを比較検討することはパーソンセンタード・アプローチの展開において重要な示唆を与えてくれる。第1部のA-1、A-2は認知療法からの同様の試みといえよう。

なお、2020年は「人間性心理学研究」に1本（B-10）、関連文献が掲載された。また、「体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」の文献は、日本フォーカシング協会ニューズレター「The Focuser's Focus」にコンスタントに発表されている。

A.書籍

〔該当文献なし〕

B.研究論文

1. 阿部利恵 2020 研究者の数珠つなぎ：身体 フォーカシング 妄想=ひとりでゆったり・みんなとゆったり The Focuser's Focus, 22(4), 14-16.
2. 青木 剛 2020 「最近の私ってキュウリやねん」への傾聴から学ぶ フォーカシング指向リスニングワークー 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 19, 110-122.
3. 土井晶子 2020 国際交流コーナー：新たなレジェンドの誕生！—第2回アジア・フォーカシング国際会議@上海の思い出 The Focuser's Focus, 22(4), 17-18.
4. 芳賀朋子 2020 プレゼンスと共感で動く The Focuser's Focus, 23(2), 5.
5. 堀尾直美 2020 国際交流コーナー：＜感想＞フォーカソン (Focus-a-thon) 日本語向け時間 The Focuser's Focus, 23(2), 13-14.
6. 泉屋昌平 2020 「早期の自己」と出くわす The Focuser's Focus, 23(2), 6.
7. 菊池幸子 2020 生き方や関係性に示唆 The Focuser's Focus, 23(2), 5-6.
8. 吉良安之 2020 研究者の数珠つなぎ：日常生活のなかのフォーカシング体験 The Focuser's Focus, 23(3), 8-10.
9. 小坂淑子 2020 国際交流コーナー：新しい“時空間” The Focuser's Focus, 23(3), 12-13.
10. 久羽 康 2020 Bion理論のパーソン・センタード・アプローチにおける可能性—Gendlin理論との関連から— 人間性心理学研究, 38(1), 41-51.

11. 李明 2020 国際交流コーナー：フェルトセンスから直照合体へ The Focuser's Focus, 23(1), 4-9.
12. 望月秋一編大月かおり・永野順子・T.Y. 2020 紅葉フォーカシング& PCA ワーク2019—感想と振り返り— The Focuser's Focus, 22(4), 6-8.
13. 望月秋一 2020 実存と観照フォーカシング The Focuser's Focus, 22(4), 9-12.
14. 宮川睦子 2020 日常の暮らしの中にあるフォーカシング～Sちゃんの発見～ The Focuser's Focus, 23(2), 4-5.
15. 大田民雄 2020 私はチリのセルジオ・ララ氏の文書を読んで驚嘆しました。 The Focuser's Focus, 23(3), 7.
16. 大月かおり 2020 Web学習会で共に学ぶ The Focuser's Focus, 23(2), 7.
17. 酒井久実代 2020 インタラクティブ・フォーカシングとフォーカシング・ショートフォーム The Focuser's Focus, 22(4), 12-13.
18. 桜井多恵子 2020 国際交流コーナー：第二回アジア国際フォーカシング会議 (AFIC) 備忘録 The Focuser's Focus, 22(4), 19.
19. 桜井多恵子 2020 国際交流コーナー：「池見陽フォーカシング」満載のワークショップ The Focuser's Focus, 23(2), 12.
20. 笹田晃子 2020 子どもとフォーカシング：マルタ・スタベルツに感謝をこめて The Focuser's Focus, 23(1), 3-4.
21. 笹田晃子 2020 国際交流コーナー：<Weeklong感想>勢いで参加してしまいました！—偶然の出会いも楽しかったです— The Focuser's Focus, 23(3), 11-12.
22. 笹田晃子 2020 子どもとフォーカシング：マルタ・スタベルツを偲んで The Focuser's Focus, 23(2), 3-4.
23. 笹田晃子・大澤三枝子編 2020 アン・ワイザー・コーネルのビデオセミナー『停止したプロセス、トラウマの癒し、内側との関係 (Stopped Process, Healing Trauma, and Inner Relationship)』に参加して The Focuser's Focus, 23(2), 5-8.
24. 島袋みどり・桑野浩明 2020 小学校教職員の心理的緩和法としてのフォーカシングの適用 東亜大学大学院総合学術研究科「東亜臨床心理学研究」, 19, 71-82.
25. 白岩紘子 2020 子どもとフォーカシング：「ミラーリングについて」・・秋の夜なが、徒然なるままに・・ The Focuser's Focus, 23(3), 5-6.
26. 高橋寛子 2020 研究者の数珠つなぎ：私はフォーカシングをどのように生き、心理臨床や研究に活かしてきたのだろうか？ The Focuser's Focus, 23(2), 8-11.
27. 土江正司 2020 国際交流コーナー：進むフォーカシングと仏教の融和—第2回アジア国際フォーカシング会議より— The Focuser's Focus, 22(4), 18-

- 19.
28. 筒井優介 2020 国際交流コーナー：フォーカシング×マラソン＝フォーカソン The Focuser's Focus, 23(2), 13.
29. 上村英生 2020 途中で何度も聴く The Focuser's Focus, 23(2), 6-7.
30. 山岡俊英 2020 状況を生きるからだ～自身のプロセスに深く The Focuser's Focus, 23(2), 7-8.
31. 矢野キエ 2020 子どもとフォーカシング：大切なことを心にとめて—マルタ・スタベルツの計報に接して— The Focuser's Focus, 22(4), 5-6.
32. 吉澤良子 2020 フォーカシングサンガ@東京 体験レポート The Focuser's Focus, 22(4), 13-14.

C.学会発表

1. 青木 剛・小中萌愛・松下ひかり・伊藤佐和子 2020 2019年度南山大学青木ゼミ卒業論文の概観 日本人間性心理学会第39回大会プログラム・発表論文集, 48.
2. 伊藤研一 2020 大会主催ワークショップ：やさしいフォーカシング—対人援助職に役立ちます— 日本人間性心理学会第39回大会プログラム・発表論文集, 27.
3. 久羽 康 2020 学会奨励賞受賞記念講演：臨床と有機体、主体、応答性 日本人間性心理学会第39回大会プログラム・発表論文集, 20.
4. 真澄 徹 2020 児童養護施設心理士におけるセラピストフォーカシングの意味 日本人間性心理学会第39回大会プログラム・発表論文集, 52.
5. 岡村心平 2020 テキストマイニングを用いたFocusing第1版・第2版の改訂内容の検討：cruxの使用法に着目して 日本人間性心理学会第39回大会プログラム・発表論文集, 42.
6. Parker, R. (小坂淑子・日笠摩子訳) 2020 大会主催講演：Focusing Oriented Psychotherapy and Complex Trauma (フォーカシング指向心理療法と複雑性トラウマ) 日本人間性心理学会第39回大会プログラム・発表論文集, 16-17.
7. 櫻本洋樹 2020 奨励賞受賞者講演2：セラピストが自身のフェルトセンスに開かれたあり方の治療的意義—こころそしてフェルトセンスという無形の富— 日本心理臨床学会第39回大会発表論文集, 4.
8. 舎川優悟 2020 フォーカシング版プロセススケール作成の試み 日本人間性心理学会第39回大会プログラム・発表論文集, 55.
9. 高沢佳司・中山 真 2020 フォーカシング中の解釈レベルを測定する試み 日本パーソナリティ心理学会第29回大会プログラム, 19.
10. 田中秀男 2020 フェルトセンスへの創造的廻行を介した言明間の移行：ジェンドリンのプラトンの対話篇注釈を手引きとして 日本人間性心理学会第39

回大会プログラム・発表論文集, 47.

11. 山本志帆 2020 ヨガフォーカシングの開発と適用についての検討 日本人間性心理学会第39回大会プログラム・発表論文集, 66.
12. 矢野キエ 2020 フォーカシングを用いた保育者の応答に関する探索的研究—子どもの話を聴くこと、表現を促すこと— 日本人間性心理学会第39回大会プログラム・発表論文集, 44.

D.翻訳

1. Conell, A.W. (久羽 康訳) 2020 国際交流コーナー：Report from Shanghai Asia international Conference The Focuser's Focus, 22(4), 17.

E.海外文献紹介

[該当文献なし]

F.書評

[該当文献なし]

付：同リスト（～2019）

「第Ⅱ部：体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」の追録

A.書籍

[該当文献なし]

B.研究論文

1. 安藤智英美 2014 連絡帳を用いた担任と保護者のコミュニケーションに関する質的研究 授業実践開発研究, 7, 61-70.
2. 青木 剛 2016 フォーカシング的態度に関する研究—その尺度研究と臨床応用について— 関西大学学位論文
3. 近田輝行 2014 半構造化した描画課題による新たなclearing a spaceの試み：「公園のベンチ」 東京女子大学紀要論集, 61(1), 133-146.
4. 崔チャン・根本真理子・池見 陽 2017 韓国語版EXPチェックリストの試作過程及び体験過程の推定に参照される非言語的表現をめぐって 関西大学臨床心理専門職大学院紀要「サイコロジスト」, 7, 49-56.
5. 羽田野暎子 2015 自分の特徴を振り返るツールとしてのカンバセーション・ドロ잉：前反省的な体験を反省的に覚知する 関西大学臨床心理専門職大学院紀要「サイコロジスト」, 5, 19-27.
6. 平野智子・池見 陽 2013 産業保健師のメンタルヘルス：フォーカシングを用いた対人援助職支援の試み 第49回日本心身医学会近畿地方会演題抄録,

- 53(1), 76.
7. 池見 陽 2015 心のメッセージを聴くために 日本糖尿病教育・看護学会誌, 19(1), 38-41.
 8. 池見 陽 2018 複雑に布置された全体は動きを指し示している 大阪経大論集, 6, 81-96.
 9. 稲垣応顕・松井理納・犬塚文雄 2016 感情表出トレーニングの理論的検討：そのねらいと効果の過程に着目して 上越教育大学研究紀要, 35, 11-21.
 10. 井野めぐみ 2015 夢フォーカシングではどのように夢とかかわるのか：応答分類による研究 関西大学臨床心理専門職大学院紀要「サイコロジスト」, 5, 63-71.
 11. 伊藤研一 2015 「逆転移」感得と吟味の練習法としてのインタラクティブ・フォーカシング：初心心理臨床家のために 学習院大学紀要「人文」, 3, 117-126.
 12. 伊藤義美 2015 ぎふ・長良川フォーカシング・ワークショップの実践：長良川方式の事例研究 人間環境大学「人間と環境」, 9, 45-60.
 13. 伊藤研一 2016 ロジャーズは中核条件で何をめざしたのか：来談者中心療法とフォーカシング、そして心理療法 学習院大学紀要「人文」, 14, 149-167.
 14. 伊藤義美 2016 セルフヘルプ技法としての心のつぼフォーカシング (KFT) 人間環境大学「人間と環境」, 12, 12-24.
 15. 伊藤義美 2016 セルフヘルプ技法としての風景天気図フォーカシング (VOMF) について 人間環境大学「人間と環境」, 7, 10-21.
 16. 伊藤義美・寺田節子 2017 興味深い進展を示した初心者のフォーカシング・セッション 人間環境大学「人間と環境」, 8, 37-51.
 17. 伊藤義美 2019 フォーカシング指向グループアプローチ (FOGA) を用いた保護者への心理教育プログラム 人間環境大学「人間と環境」, 10, 1-8.
 18. 伊藤研一・西澤善子 2017 主体から切り離された身体感覚とフェルト・センス 学習院大学人文科学研究所「人文」, 15, 57-69.
 19. 城一道子 2016 フォニックス・ライム・チャンツ・歌を活用した発音指導の教育効果：TAE (Thinking at the Edge) を応用した分析 江戸川大学教職課程センター紀要「教育総合研究」
 20. 筧 愛 2015 手のワークとアート・プレゼントによる気持ちの変化の一考察 関西大学臨床心理専門職大学院紀要「サイコロジスト」, 5, 83-90.
 21. 上條晴夫 2018 教材開発：連詩の持つ学びの意味・学びのしかけ 教職研究 2017, 123-134.
 22. 鹿島田景子 2016 箱庭療法とフォーカシングの統合的方法 (Sandplay Technique & Focusing : STF) の試み：からだによる箱庭解釈 学習院大学人文科学論集, 25, 237-258.
 23. 糟谷千香江・村田ひろみ・河瀬未来世・河津 巖 2018 発達障害児を持つ

- 母親の時間的展望の変化：「人生紙芝居」を用いた自伝的語りの再構成 九州ルーテル学院大学人文学部心理・教育・福祉研究, 17, 11-19.
24. 小林孝雄 2016 ロジャーズ理論から見たセラピスト・フォーカシングの意義 生活科学研究, 38, 89-98.
 25. 小泉隆平 2017 フォーカシング指向心理療法におけるクリアリング・ア・スペースの活用について：Thinking Aboutという技法を巡って 近畿大学総合社会学部紀要, 6(1), 21-39.
 26. 小松原智子 2014 キャリア教育における自己理解・表現を豊かにする試み：「字フォーカシング」の活用事例から 中京大学教師教育論叢, 4, 175-188.
 27. 久保田恵実・池見 陽 2017 体験過程様式の推定に関する研究：EXPチェックリストⅡ ver.1.1作成の試み 関西大学臨床心理専門職大学院紀要「サイコロジスト」, 7, 57-65.
 28. 栗野理恵子 2016 フォーカシング指向音楽聴取がもたらす体験過程：聴取音楽の感情価と好みの影響 音楽心理学音楽療法研究年報, 45, 34-41.
 29. 栗野理恵子・清水 遵 2016 からだの感じフォーカシングがもたらす心理的生理的効果 愛知淑徳大学論集 心理学部, 6, 1-11.
 30. 栗野理恵子・清水 遵 2017 悲しみ想起後のフォーカシング技法を用いた音楽聴取がもたらす心理・生理的反応②：教示の有無と歌詞の内容の違いによる検討 感情心理学研究, 25 Supplement, 44.
 31. 前田幸恵 2015 体験様式の違いによる語りの様態に関する一研究 立教大学臨床心理学研究, 9, 1-12.
 32. 松本 剛・小橋洋子 2017 小学校教育におけるフォーカシング活動の効果検証のための予備的研究 兵庫教育大学研究紀要, 50, 105-113.
 33. 三村尚彦 2018 詩人のFelt Meaning：荒川修作、マンドリン・ギンスの遺稿研究に向けて 関西大学東西学術研究所紀要, 51, A79-A100.
 34. 三宅麻希 2013 クライアントにとって意外な気づきを促したフォーカシングセッションでの応答の一例—フォーカシングにおけるセラピストの応答の機能についての一考察— 四天王寺大学紀要, 56, 23-32.
 35. 三宅麻希 2015 パターン化された思考へのフォーカシング適用についての一考察 四天王寺大学紀要, 60, 179-190.
 36. 宮本一平 2014 JournalingとInterpersonal Process Recallを応用して自らを振り返り理解を深める試み 関西大学臨床心理専門職大学院紀要「サイコロジスト」, 4, 63-70.
 37. 村上博志 2013 グループ・フォーカシングの特徴に関する研究—参加者の感想シートの分析から— 九州大学心理学研究, 14, 139-147.
 38. 村川治彦 2018 G.R.A.C.E.：コンパッションに基づくケアのトレーニング Cancer Board Square, 4(1), 70-75.
 39. 中島妃佳里 2013 ジャーナリングの意義とその方法 関西大学臨床心理専

- 門職大学院紀要「サイコロジスト」, 3, 21-30.
40. 大橋梨乃・池見 陽 2017 クライエントの体験過程様式の推定値とセラピストが認知した面接経過の関係について 関西大学臨床心理専門職大学院紀要「サイコロジスト」, 7, 39-47.
 41. 岡村心平 2015 Gendlinにおけるメタファー観の進展 関西大学臨床心理専門職大学院紀要「サイコロジスト」, 5, 9-18.
 42. 岡村心平 2017 共に感じること：対人的な相互作用における交差に関する理論的研究 関西大学臨床心理専門職大学院紀要「サイコロジスト」, 7, 29-38.
 43. 押岡大覚・鎌倉利光・寺原美歩 2016 テキストマイニング及び多変量解析を用いたフォーカシング指向グループ：参加者の体験分析グループ・プロセスに関する仮説生成の試み【第一報】 聖泉大学紀要「聖泉論叢」, 23, 1-12.
 44. 押岡大覚・鎌倉利光・寺原美歩 2017 テキストマイニング及び多変量解析を用いたフォーカシング指向グループ参加者の体験分析：グループ・プロセスに関する仮説生成の試み【第2報】 聖泉大学紀要「聖泉論叢」, 24, 33-44.
 45. 酒井久実代 2013 感情プロセス認識力と抑うつ・不安との関連性の検討 感情心理学研究, 20, 9.
 46. 酒井久実代・河崎俊博・池見 陽 2017 フェルトセンスの象徴化を含めたフォーカシング的態度の測定：因子構造、性差、および精神的健康の因果モデルによる検討 関西大学臨床心理専門職大学院紀要「サイコロジスト」, 7, 9-18.
 47. 酒井久実代・河崎俊博 2018 振り返り日記が精神的健康に及ぼす効果の検討 関西大学臨床心理専門職大学院紀要「サイコロジスト」, 8, 49-59.
 48. 島田佳栄・緒賀郷志 2014 「こころの風景天気図」がもたらす心理的影響から：フォーカシング的経験の側面から 岐阜大学教育学部研究報告「人文科学」, 62(2), 243-252.
 49. 高橋和子・山本 光 2018 レジリエンスを高める「からだ気づき」の有効性に関する研究：看護専門職の「主体的対話的で深い学び」を通して 日本女子体育連盟学術研究, 34, 17-30.
 50. 竹端佑介・後和美潮 2016 大学生の過剰適応とフォーカシング的態度、身体感覚及び精神的健康との関連性について 学校保健研究, 58(1), 25-32.
 51. 竹端佑介・後和美潮 2018 過剰適応と性格特性が抑うつに与える影響について：大学生を対象にして 大阪国際大学紀要「国際研究論叢」, 31, 7-19.
 52. 竹下健太 2013 フォーカシングと筆記開示法の統合の試み（前編） 平成音楽大学紀要, 13(2), 47-53.
 53. 竹谷美佐子 2013 舞踏の稽古における身体の組織化とフォーカシング 舞

- 踏學2013(36), 94.
54. 竹谷美佐子 2016 舞踏の稽古における身体的思考：身体イメージの再構成を手がかりとして 人体科学, 2(1), 23-33.
 55. 玉澤秀寿・森川友子 2015 大学の講義におけるフォーカシング体験実習にインタラクティブ・フォーカシングを導入する意義についての検討 九州産業大学国際文化学部紀要, 60, 163-174.
 56. 田村眞由美・得丸智子 2016 質的研究におけるTAE (Thinking At the Edge) の分析のプロセスについて：分析者の内省と体験の考察 聖マリア学院大学紀要, 8, 33-40.
 57. 寺脇 梓 2013 フォーカシング的態度の諸側面の検討—フォーカシング的態度尺度作成の試みを通して— 学習院大学人文科学論集, 22, 123-145.
 58. 舍川優吾 2018 フォーカシング領域におけるマインドフルネス：双方の関連性と異同に着目して 九州産業大学大学院臨床心理センター「臨床心理学論集」, 13, 27-33.
 59. 上淵真理江 2017 電話フォーカシングによる社交不安症の大学生との面接過程 共立女子短期大学文科紀要, 60, 1-12.
 60. 上村英生 2018 フォーカシングとTAEを使って書き記すことによる社会の改良 北海道教育大学大学院教育学研究科学校臨床心理学専攻研究紀要「学校臨床心理学研究」, 15, 41-55.
 61. 山形碧子 2017 ピアノ演奏における体験過程：曲理解の推進とフェルトセンス 関西大学臨床心理専門職大学院紀要「サイコロジスト」, 7, 101-109.
 62. 山内志保 2015 感情体験の象徴化による感情調整に関する一考察 神奈川大学心理相談センター紀要, 7, 9-47.
 63. 矢野キエ 2014 子どもたちへのよりよい関わりを考える：こどもフォーカシングに基づいて 大阪キリスト教短期大学紀要, 54, 139-151.
 64. 矢野キエ 2017 体験過程を推進させる応答：機能する応答としない応答、体験過程流コラージュワークの実践より 大阪キリスト教短期大学紀要, 57, 1-21.
 65. 吉水ちひろ 2017 共感的傾聴トレーニングとしてのインタラクティブ・フォーカシング：大学院授業におけるプログラムの試み 仁愛大学研究紀要(人間学部篇), 16, 33-42.

C.学会発表

1. 阿世賀浩一郎 1995 Gendlinの体験過程理論によるalexithymia概念の拡張およびその治療的面接場面への適用の実際 心身医学, 35(5)(第70回日本心身医学会関東地方会演題抄録), 431.

D.翻訳

〔該当文献なし〕

E.海外文献紹介

〔該当文献なし〕

F.書評

〔該当文献なし〕

第Ⅲ部：ベーシック・エンカウンター・グループ

「第Ⅲ部：ベーシック・エンカウンター・グループ」には関連文献のうち、ベーシック・エンカウンター・グループ、パーソン・センタード・アプローチなどのパーソンセンタードなオリエンテーションにもとづくグループ・アプローチ、「ファシリテーター」「グループ・プロセス」などの基礎概念、歴史、人物等が論じられているものを収録した²。

2020年の概要は次のとおりである。「A.書籍」は1本で単行本であった。「B.研究論文」は14本で、そのうち1本が特集であった。「C.学会発表」は8本であった。「D.翻訳」はなかった。「E.海外文献紹介」はなかった。「F.書評」はなかった。

2020年における「ベーシック・エンカウンター・グループ」の特徴は、この領域の実践と研究を推進してきた人間関係研究会創立50周年記念書籍であるA-1、および同会の学会賞受賞記念シンポジウムの記録であるB-9が刊行されたことであろう。

A-1は、前述のように人間関係研究会創立50周年を記念して刊行された書籍である。本書は2分冊構成で、初学者を読者に想定し、基本概念等を概説した上で、その展開を紹介した「学びの書」と、後述の昨年の日本人間性心理学会での学会賞受賞記念シンポジウムの収録と人間関係研究会ホームページのコラムに会員が寄せたコラムを中心とした「出会いの書」による。これまで同研究会が開拓してきたエンカウンター・グループの実践と研究があればこそその書籍であり読み応えがある。その歩みも年表として収録されており、資料的価値も高い1冊である。

B-13は、昨年の日本人間性心理学会での学会賞受賞記念シンポジウムを元とした特集である。わが国の人間性心理学におけるエンカウンター・グループの重要性、その実践と研究への人間関係研究会の貢献が認められたことによる学会賞受賞であり、今後の同会の活動の発展が期待される。

なお、2020年は「人間性心理学研究」に7本（B-1、B-5、B-6、B-7、B-8、

² なお、体験過程療法に特化したグループ・アプローチは、第Ⅱ部へ収録されている。

B-9、B-13)、関連文献が掲載された。

A.書籍

1. 人間関係研究会監修伊藤義美・松本 剛・山田俊介・坂中正義・本山智敬編著 2020 エンカウンター・グループの新展開—自己理解を深め他者とつながるパーソンセンタード・アプローチ— 木立の文庫
学びの書—考え方と実践—
 - 第Ⅰ部 エンカウンター・グループとは何か?
 - 第1章 エンカウンター・グループの概要とこれまで
 - 第2章 エンカウンター・グループの構造とプロセス
 - 第3章 エンカウンター・グループの今日的意義と適用
 - 第4章 エンカウンター・グループと他のアプローチ
 - 第5章 エンカウンター・グループの研究法と研究動向
 - 第Ⅱ部 エンカウンター・グループの多様な展開
 - 第1章 エンカウンター・グループの諸側面
 - 第2章 さまざまなエンカウンター・グループ
 - 第3章 トレーニングとしてのエンカウンター・グループ
 - 第4章 現代社会とエンカウンター・グループ出会いの書—対話とメッセージ (タテ組み)
 - 第Ⅲ部 エンカウンター・グループの未来を拓く—学会賞受賞記念シンポジウムから—

はじめに

シンポジスト1 人間関係研究会は、生きるエネルギーでした

シンポジスト2 時代とエンカウンター・グループ、そして変わらぬもの

シンポジスト3 エンカウンター・グループのこれからについて考える

指定討論 人間関係研究会の歩み五十年に寄せて

まとめ 次代への継承を期して

総括討論 エンカウンター・グループのフロンティアを探る
 - 第Ⅳ部 一人ひとりの物語—パーソンセンタード・アプローチの声をつむぐ

B.研究論文

1. 畠瀬直子 2020 シンポジウム 2019 人間性心理学研究, 38(1), 5-6.
2. 廣瀬真由美 2020 看護基礎教育における継続的PCAグループの適用と効果の検討—社会人基礎力の育成と評価— 東亜大学大学院総合学術研究科「東亜臨床心理学研究」, 19, 148-149.

3. 廣瀬真由美 2020 看護基礎教育における継続的PCAグループの適用と効果の検討—社会人基礎力の育成と評価— 東亜大学大学院総合学術研究科修士論文
4. 作田信子 2020 九十九里のエンカウンターでの体験 日本カウンセリング研究会本部2019年度会報「ゆすらうめ」, 6-7.
5. 松本 剛 2020 序文 人間性心理学研究, 38(1), 1-3.
6. 三國牧子 2020 グループと人間性心理学 人間性心理学研究, 38(1), 65-69.
7. 森岡正芳 2020 他者と出会うこと—エンカウンター・グループの持続する時間— 人間性心理学研究, 38(1), 23-28.
8. 本山智敬 2020 エンカウンター・グループの今後の展開に向けて 人間性心理学研究, 38(1), 15-22.
9. 日本人間性心理学会編 2020 特集1：第13回学会賞シンポジウム「未来を紡ぐ人間関係研究会の歩み」 人間性心理学研究, 38(1), 1-28.
 序文 (松本 剛)
 シンポジウム 2019 (畠瀬直子)
 時代の変化とエンカウンター・グループ、そして変わらぬもの—人間関係研究会第二世代として— (高松 里)
 エンカウンター・グループの今後の展開に向けて (本山智敬)
 他者と出会うこと—エンカウンター・グループの持続する時間— (森岡正芳)
10. 日本カウンセリング研究会本部 2020 エンカウンター・グループに参加しての感想 日本カウンセリング研究会本部2019年度会報「ゆすらうめ」, 8.
11. 野島一彦・坂中正義 2020 わが国の「集中的グループ経験」と「集団精神療法」に関する文献リスト (2019) 跡見学園女子大学附属心理教育相談所紀要, 16, 3-29.
12. 作田信子 2020 「エンカウンター・グループ (九十九里)」に参加して 日本カウンセリング研究会本部2019年度会報「ゆすらうめ」, 5.
13. 高松 里 2020 時代の変化とエンカウンター・グループ、そして変わらぬもの—人間関係研究会第二世代として— 人間性心理学研究, 38(1), 7-13.
14. 吉田由美・重松初代香・原口淑子・古谷 浩・中山幸輝・村山正治 2020 看護学生の入学初期に実施した1泊2日のPCAGの効果測定と今後の課題—過去3年分のデータをもとに— 東亜大学大学院総合学術研究科「東亜臨床心理学研究」, 19, 43-48.

C.学会発表

1. 金子周平・古賀なな子 2020 ファシリテーター訓練におけるメンバー体験と体系的訓練の効果の比較 日本人間性心理学会第39回大会プログラム・発表論文集, 64.
2. 松井幸太 2020 自然体験活動を通じたエンカウンターグループにおける成

長と課題—参加者の体験過程と中途離脱者の体験過程に着目して— 日本心理臨床学会第39回大会発表論文集, 85.

3. 松本 剛・三國牧子 2020 大会主催ワークショップ：ベーシックエンカウンターグループ 日本人間性心理学会第39回大会プログラム・発表論文集, 31.
4. 新村信貴 2020 家族エンカウンター・グループの機能と経年参加者のニーズに関する一考察—自然な対話と成長への気付き— 日本人間性心理学会第39回大会プログラム・発表論文集, 49.
5. 大谷桃子 2020 青年期女性における生きづらさを話し合う会の実践と検討 日本人間性心理学会第39回大会プログラム・発表論文集, 54.
6. 山郷志乃美 2020 エンカウンター・グループにおける自己変容に寄与した体験の検討—体験記録を分析して— 日本人間性心理学会第39回大会プログラム・発表論文集, 53.
7. 清水幹夫 2020 大会主催ワークショップ：自己生成プロセスワークパーソンセンタードセラピストを志向する方々のために— 日本人間性心理学会第39回大会プログラム・発表論文集, 29.
8. 首藤和佳子・小池有紀・内田尚宏 2020 エンカウンター・グループの事前準備における幹事の役割に関する一考察 日本心理臨床学会第39回大会発表論文集, 287.

D. 翻訳

[該当文献なし]

E. 海外文献紹介

[該当文献なし]

F. 書評

[該当文献なし]

付：同リスト（～2019）

「第三部：ベーシック・エンカウンター・グループ」の追録

A. 書籍

1. 國分久子監修國分康孝著 2018 構成的グループエンカウンターの実践と方法：半世紀にわたる研究成果と継承 金子書房
まえがき
序章 私の人生にSGEはどう生かされたか
第1章 エンカウンターの意味
第2章 自己開示とシェアリング

| | |
|-----|------------------------|
| 第3章 | S G Eの思想と理論的背景 |
| 第4章 | S G Eの方法と技法 |
| 第5章 | 教育カウンセラーにとってのS G E |
| 第6章 | 子どもにとってのS G E |
| 第7章 | S G Eリーダーの心得 |
| 第8章 | 教育カウンセリング理論とS G E |
| 第9章 | S G E後継者へ捧ぐ——S G E理論総説 |
| | あとがき |

B.研究論文

1. 松井幸太 2019 自然体験活動を通じたエンカウンターグループの試み：参加者のふりかえりと自己成長性および自己効力感からの検討 関西国際大学研究紀要, 20, 109-126.
2. 松本千尋 2019 非構成的エンカウンターグループ参加体験の報告と考察 跡見学園女子大学附属心理教育相談所紀要, 15, 79-84.
3. 三浦文子 2019 既知集団の大学生を対象とした授業での構成的エンカウンター・グループに関する一考察：プログラムとプロセスの視点から 文教大学「人間科学研究」, 40, 13-24.
4. 水野邦夫・中地展生他 2018 構成的グループ・エンカウンターへの満足度と感情変化について—自発参加・単発型の場合— カウンセリング研究 (増刊号), 51, 35.
5. 村山正治 2009 いじめの予防：ポジティブフィードバックの意義—PCAグループからのアプローチ— 子どもの心と学校臨床, 11, 遠見書房.
6. 西野秀一郎 2018 臨床心理士を目指す大学院生の継続型ベーシック・エンカウンター・グループ体験による心理的効果の研究—アイデンティティの模索の促進に焦点を当てて— 跡見学園女子大学附属心理教育相談室紀要, 14, 67-79.
7. 西野秀一郎・高橋由梨他 2019 自己生成プロセスワーク体験の報告と考察 跡見学園女子大学附属心理教育相談所紀要, 15, 57-70.
8. 野島一彦 2018 三タイプのエンカウンター・グループについての検討 跡見学園女子大学附属心理教育相談所紀要, 14, 3-8.
9. 野島一彦 2019 エンカウンター・グループにおけるファシリテーターの事例研究 (1980) 野島一彦教授日本心理臨床学会学会賞受賞記念誌, 30-50.
10. 野島一彦 2019 エンカウンター・グループ・プロセス論 (1982) 野島一彦教授日本心理臨床学会学会賞受賞記念誌, 51-64.
11. 野島一彦 2019 エンカウンター・グループにおける個人過程—概念化の試み— (1983) 野島一彦教授日本心理臨床学会学会賞受賞記念誌, 65-73.
12. 野島一彦 2019 エンカウンター・グループ研究の三本柱を語る 野島一彦

教授日本心理臨床学会学会賞受賞記念誌, 75-81.

13. 野島一彦 2019 「3タイプのエンカウンター・グループ・シリーズ体験プログラム」の実践と検討 跡見学園女子大学附属心理教育相談所紀要, 15, 3-7.
14. 大橋佳奈 2018 ベーシック・エンカウンター・グループ体験の報告と考察 跡見学園女子大学附属心理教育相談室紀要, 14, 123-135.
15. 大脇百合子 2007 看護職者の職場内エンカウンター・グループにおける体験—グループ参加者の気持ちの変化に着目して— 日本看護管理学会誌, 11(1), 20-29.
16. 櫻井信也 2018 エンカウンター・グループの発達の、治療的意義—あるグループの事例を通して— 神奈川県立外語短期大学紀要 総合編, 28, 63-77.
17. 山口豊一・山本絵梨他 2019 中学生に対する構成的グループ・エンカウンターを用いた効果研究—固定化された人間関係において— 跡見学園女子大学附属心理教育相談所紀要, 15, 43-56.
18. 鐘水翔太 2019 ベーシック・エンカウンター・グループ体験の報告と考察 跡見学園女子大学附属心理教育相談所紀要, 15, 85-90.
19. 鐘水翔太 2019 学習塾講師を対象とした構成的グループエンカウンターによる自尊感情育成の研究 跡見学園女子大学心理学部紀要, 1, 143-152.

C.学会発表

1. 日本人間性心理学会第37回大会 2018 ワークショップ：3タイプのエンカウンター・グループ・ファシリテーターの理論と実際 日本人間性心理学会第37回大会プログラム・発表論文集, 32.
講師（野島一彦）
2. 野島一彦 2018 3タイプのエンカウンター・グループについての検討 日本集団精神療法学会第35回大会抄録集, 34-35.
3. 野島一彦 2019 3タイプのエンカウンター・グループをシリーズとして体験するプログラムの実践と検討 日本集団精神療法学会第36回大会抄録集, 36.

D.翻訳

〔該当文献なし〕

E.海外文献紹介

〔該当文献なし〕

F.書評

1. 神田橋條治 2015「村山正治編著 2014『「自分らしさ」を認めるPCAグループ入門—新しいエンカウンターグループ法—』創元社」こころの科学, 181, 日本評論社, 103.

第Ⅳ部：その他

「第Ⅳ部：その他」には関連文献のうち、親子関係・家庭生活、教育・学習（学生中心の教授法や人間中心の教育など）等の来談者中心のオリエンテーションの広がりやその基礎概念、歴史、人物等、また、表現療法などのこれまでの3部には分類されないものを収録した。

2020年の概要は次のとおりである。「A.書籍」は1本で単行本であった。「B.研究論文」は3本で、そのうち1つが特集であった。「C.学会発表」は4本で、そのうち3つがシンポジウムであった。「D.翻訳」はなかった。「E.海外文献紹介」はなかった。「F.書評」はなかった。

2020年における「その他」の特徴は、長年、学校臨床心理士ワーキンググループ代表であった村山正治氏の代表退任記念講演を軸としたスクールカウンセリングに関わる論文集であるA-1が刊行されたことであろう。50年にわたる学校臨床から生み出されていた氏独自のPCAグループやPCAGIPといった実践や個人々人を大切にするという哲学に裏打ちされたグループ観、組織観（これがまさにパーソンセンタード・アプローチの視座といえよう）からの学校臨床がいきいきと立ち現れてくる良書である。

A.書籍

1. 村山正治 2020 スクールカウンセリングの新しいパラダイム—パーソンセンタード・アプローチ、PCAGIP、オープンダイアローグ— 遠見書房
 - 第1章 スクールカウンセリングのパラダイム論
 - 第2章 パーソンセンタード・アプローチとオープンダイアローグの出会いから生まれてきたもの—21世紀のあたらしい心理臨床のパラダイムを求めて
 - 第3章 学校におけるPCAグループの実践と展開
 - 第4章 グループワークとしての新しい事例検討：PCAGIP法入門
 - 第5章 心理臨床家養成における実践家—科学者モデルはうまく機能しているか
 - 第6章 連携をキーワードにみるSC事業の新しい展開への序曲的メモ
 - 第7章 いじめの予防：ポジティブフィードバックの意義—PCAグループからのアプローチ
 - 第8章 新しいスクールカウンセラー：チーム学校をめぐる
 - 第9章 スクールカウンセラーの創成期から未来に向けて

B.研究論文

1. 南陽子・村山正治・並木崇浩 2020 第3回PCAGIPネットワーク大会シンポジウム—PCAGIP法・ファシリテーター論・実践上の工夫— 東亜大学大

学院総合学術研究科「東亜臨床心理学研究」, 19, 107-121.

企画者 (村山正治・並木崇浩・南陽子)

話題提供者 (渡辺隆・押江隆・岩淵匡彦・南陽子)

指定討論者 (兒山志保美・小野真由子)

2. 成田有子・村山正治 2020 PCAGIPとテール 東亜大学大学院総合学術研究科「東亜臨床心理学研究」, 19, 97-106.
3. 杉浦崇仁・村上恵子・吉田由美・古野薫・北田朋子・中山幸輝・吉持慕香・村山正治 2020 「PCAグループ」及び「PCAGIP法」に関する文献リスト (2019) 東亜大学大学院総合学術研究科「東亜臨床心理学研究」, 19, 123-132.

C.学会発表

1. 日本人間性心理学会 (第39回大会) 2020 大会準備委員会企画シンポジウム：新型コロナウイルス状況下での人間性心理学の実践 日本人間性心理学会第39回大会プログラム・発表論文集, 22.
話題提供者 (三國牧子・堀尾直美・下田節夫)
2. 日本心理臨床学会第39回大会 2020 教育・研修委員会企画シンポジウム：事例検討会を再検討する—ケースカンファレンス再考— 日本心理臨床学会第39回大会発表論文集, 8.
シンポジスト (嘉嶋領子・村山正治・山本力)
指定討論者 (岩倉拓・元永拓郎)
座長 (横山知行・吉川真理)
3. 日本人間性心理学会第39回大会 2020 自主シンポジウム：人間性 (心理学) と宗教性の交差をめぐって—科学技術の時代に宗教性は何であり得るか?— 日本人間性心理学会第39回大会プログラム・発表論文集, 35.
話題提供者 (飯嶋秀治・村里忠之・高橋寛子・吉良安之・森岡正芳)
4. 小野京子 2020 大会主催ワークショップ：表現アートセラピーの様々な場面での適用 (臨床、教育、産業領域) 日本人間性心理学会第39回大会プログラム・発表論文集, 28.

D.翻訳

[該当文献なし]

E.海外文献紹介

[該当文献なし]

F.書評

[該当文献なし]

付：同リスト（～2019）「第Ⅳ部：その他」の追録

A.書籍

〔該当文献なし〕

B.研究論文

1. 池見 陽 2019 表現のセンスとギヴスの創造的な出会い～体験過程とアートの相互作用をめぐって～ 臨床描画研究, 34, 64-85. 北大路書房.
2. 村山正治 2009 グループワークとしての新しい事例検討：PCAGIP法入門 子どもの心と学校臨床, 3, 遠見書房.
3. 筒井優介 2015 夢PCAGIPの試み：グループにおける相互作用の活用 関西大学臨床心理専門職大学院紀要「サイコロジスト」, 5, 73-81.

C.学会発表

〔該当文献なし〕

D.翻訳

〔該当文献なし〕

E.海外文献紹介

〔該当文献なし〕

F.書評

〔該当文献なし〕

統計

2020年に発行された文献、及び追録された文献を先述の坂中（2004）に従い分類した。その結果を以前のデータと共にTableに示した。2020年に公刊された関連文献は74篇（「来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング」10篇、「体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」45篇、「ベーシック・エンカウンター・グループ」15篇、「その他」4篇）であった³。

よって、これまでに日本で公刊された関連文献は8319篇（「来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング」3599篇、「体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」2436篇、「ベーシック・エンカウンター・グループ」1899篇、「その他」385篇）となった。

³ 学会発表は合計に含まれていない。

お願い

リストに収録した文献の記述上の誤りを見つけられた方、また、該当する文献を執筆された方、もれている文献を御存知の方は、筆者まで御連絡願えれば幸いです。

連絡先 〒466-8673 愛知県 名古屋市昭和区山里町18
南山大学 人文学部 坂中正義
E-mail:sakanaka@nanzan-u.ac.jp
Fax: 052-832-3110 (ダイヤルイン) 3955

Table 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する発行文献数 (2021.02.12現在)

| | 50-54 | 55-59 | 60-64 | 65-69 | 70-74 | 75-79 | 80-84 | 85-89 | 90-94 | 95-99 | 00-04 | 05-09 | 10-14 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 合計 | |
|-------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|------|------|------|------|------|------|----|
| 来談者中心療法 | 2 | 7 | 13 | 35 | 14 | 15 | 13 | 9 | 20 | 15 | 8 | 14 | 4 | 6 | 1 | 3 | 1 | 2 | 0 | 182 | |
| パーソンセンタード・カウンセリング | 3 | 5 | 9 | 27 | 47 | 43 | 48 | 20 | 111 | 118 | 53 | 35 | 44 | 1 | 0 | 0 | 2 | 2 | 2 | 570 | |
| 書籍：章 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 9 | 19 | 15 | 3 | 11 | 13 | 15 | 8 | 8 | 1 | 2 | 2 | 2 | 0 | 111 | |
| 論文：特集 | 0 | 5 | 91 | 68 | 67 | 114 | 149 | 229 | 186 | 317 | 348 | 281 | 252 | 46 | 17 | 37 | 22 | 16 | 6 | 2251 | |
| 論文：一般 | 1 | 3 | 3 | 8 | 5 | 1 | 3 | 4 | 1 | 0 | 10 | 12 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 55 | |
| 翻訳：単行本 | 0 | 0 | 41 | 106 | 3 | 6 | 8 | 7 | 6 | 13 | 59 | 1 | 6 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 257 | |
| 翻訳：章 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 8 | 2 | 7 | 3 | 1 | 0 | 3 | 1 | 28 | |
| 海外文献紹介 | 0 | 0 | 1 | 2 | 0 | 2 | 9 | 4 | 6 | 15 | 13 | 57 | 22 | 3 | 0 | 5 | 2 | 3 | 1 | 145 | |
| 書評 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 3 | 9 | 11 | 2 | 3 | 3 | 3 | 3 | 2 | 1 | 48 | |
| 参考：発表 | 0 | 5 | 28 | 19 | 9 | 16 | 2 | 4 | 18 | 21 | 38 | 27 | 45 | 5 | 3 | 13 | 2 | 10 | 6 | 271 | |
| 参考：シンポジウム | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 (学会発表は除く) | 6 | 20 | 158 | 247 | 138 | 190 | 249 | 288 | 334 | 489 | 506 | 423 | 342 | 72 | 22 | 48 | 29 | 28 | 10 | 3599 | |
| 体験過程療法 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 | 0 | 3 | 8 | 6 | 8 | 5 | 3 | 3 | 0 | 0 | 1 | 0 | 40 |
| フォーカシング指向心理療法 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 5 | 4 | 5 | 17 | 37 | 18 | 7 | 29 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 126 | |
| (含：体験過程の基礎概念) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 3 | 5 | 21 | 2 | 0 | 0 | 3 | 2 | 0 | 0 | 37 | |
| 論文：特集 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 24 | 66 | 99 | 130 | 191 | 401 | 373 | 363 | 70 | 71 | 82 | 75 | 51 | 32 | 2029 | |
| 論文：一般 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 5 | 5 | 8 | 3 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 26 | |
| 翻訳：単行本 | 0 | 0 | 0 | 2 | 5 | 2 | 7 | 8 | 3 | 1 | 5 | 5 | 12 | 2 | 4 | 5 | 2 | 2 | 1 | 71 | |
| 翻訳：章 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 | 1 | 1 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 | 12 | |
| 海外文献紹介 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 5 | 6 | 16 | 21 | 13 | 17 | 5 | 8 | 2 | 0 | 0 | 95 | |
| 書評 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 3 | 3 | 6 | 17 | 2 | 5 | 4 | 3 | 3 | 0 | 53 | |
| 参考：発表 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 3 | 7 | 6 | 17 | 2 | 5 | 4 | 3 | 3 | 0 | 53 | |
| 参考：シンポジウム | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 (学会発表は除く) | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 11 | 28 | 41 | 41 | 45 | 60 | 139 | 117 | 4 | 14 | 32 | 5 | 10 | 12 | 564 | |
| パーソン・エンカウンター・グループ | 0 | 0 | 2 | 7 | 6 | 37 | 81 | 116 | 159 | 266 | 461 | 436 | 433 | 80 | 88 | 93 | 88 | 71 | 45 | 2436 | |
| (含：グループカウンセリング) | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 2 | 1 | 4 | 3 | 2 | 4 | 6 | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 29 | |
| 書籍：単行本 | 0 | 0 | 1 | 1 | 4 | 19 | 16 | 15 | 30 | 29 | 14 | 4 | 10 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 146 | |
| 書籍：章 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 1 | 8 | 1 | 4 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 21 | |
| 論文：特集 | 0 | 0 | 0 | 0 | 37 | 121 | 247 | 206 | 283 | 155 | 216 | 145 | 113 | 36 | 8 | 19 | 13 | 14 | 13 | 1629 | |
| 論文：一般 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 4 | 2 | 0 | 0 | 1 | 1 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 14 | |
| 翻訳：単行本 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 0 | 1 | 2 | 4 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 14 | |
| 翻訳：章 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | |
| 海外文献紹介 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 44 | |
| 書評 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 1 | 2 | 13 | 3 | 6 | 7 | 5 | 4 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 29 | |
| 参考：発表 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 | 7 | 3 | 6 | 6 | 7 | 2 | 2 | 1 | 2 | 0 | |
| 参考：シンポジウム | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 (学会発表は除く) | 0 | 1 | 4 | 2 | 46 | 149 | 270 | 226 | 339 | 195 | 247 | 169 | 134 | 44 | 9 | 19 | 15 | 15 | 15 | 1899 | |
| その他 | 0 | 0 | 0 | 4 | 2 | 2 | 0 | 0 | 3 | 1 | 5 | 7 | 7 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 35 |
| (教育・経営など) | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 | 0 | 2 | 5 | 6 | 3 | 1 | 11 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 31 | |
| 書籍：章 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 5 | |
| 論文：特集 | 0 | 0 | 4 | 1 | 6 | 13 | 19 | 10 | 25 | 13 | 45 | 39 | 52 | 9 | 2 | 7 | 10 | 7 | 2 | 264 | |
| 論文：一般 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 3 | 1 | 0 | 3 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 12 | |
| 翻訳：単行本 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 9 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 17 | |
| 翻訳：章 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | |
| 海外文献紹介 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 5 | 2 | 4 | 3 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 19 | |
| 書評 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 6 | 0 | 2 | 1 | 2 | 3 | 18 | |
| 参考：発表 | 0 | 0 | 0 | 6 | 0 | 4 | 0 | 1 | 3 | 1 | 16 | 1 | 26 | 6 | 8 | 10 | 6 | 3 | 1 | 82 | |
| 参考：シンポジウム | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 (学会発表は除く) | 0 | 0 | 4 | 13 | 10 | 15 | 26 | 12 | 34 | 20 | 70 | 50 | 78 | 16 | 5 | 9 | 10 | 9 | 4 | 385 | |
| 総計 | 6 | 21 | 168 | 269 | 200 | 391 | 626 | 642 | 866 | 970 | 1284 | 1078 | 987 | 212 | 124 | 169 | 142 | 123 | 74 | 8319 | |

注) データは坂中による一連の「日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト」シリーズによった。